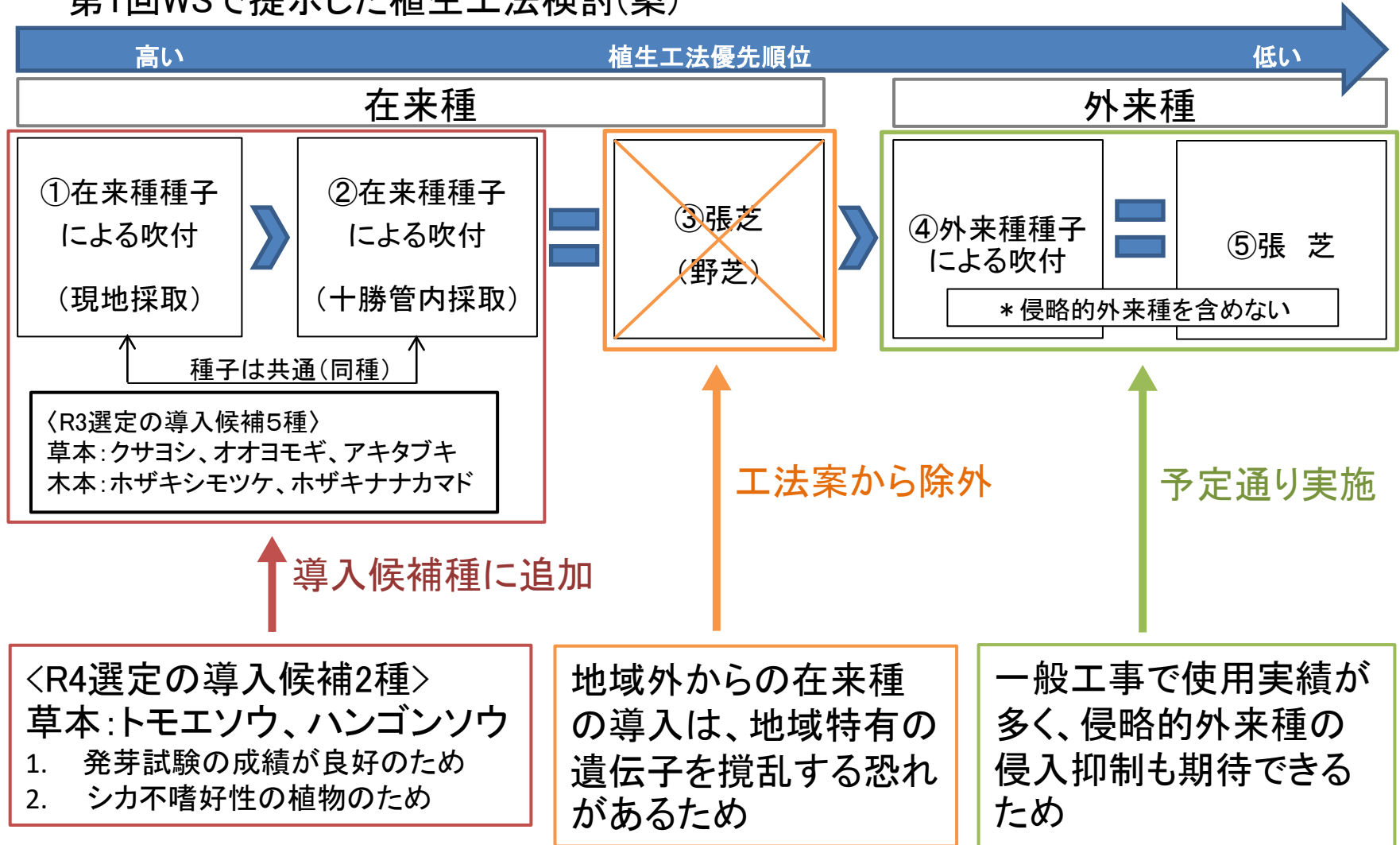


令和5年度
環境調査(植物)計画(案)

1. 次年度緑化試験に向けた検討

第1回WSで提示した植生工法検討(案)



2. 令和5年度 調査計画(案)

試験場所: 道路法面の類似環境を想定し、既伐採地内の斜面部で実施予定

試験面積: 各試験パターン25㎡

試験パターン	在来種		外来種(侵略的外来種を含まない)	
	A: 在来種種子の吹付(現地採取)	B: 在来種種子の吹付(十勝管内採取)	C: 外来種種子の吹付	D: 外来種の張芝
使用種	<候補種7種を混播> 草本: クサヨシ、オオヨモギ、アキタブキ、トモエソウ、ハンゴンソウ 木本: ホザキナナカマド、ホザキシモツケ 採取時期: R5夏季～秋季(道道沿いで採取)		<候補種案> ケンタッキーブルーグラス(ナガハグサ)、 クリーピングレッドフェスク(オオウシノケグサ)等	

在来種
草本



クサヨシ



オオヨモギ



アキタブキ



トモエソウ



ハンゴンソウ

在来種
木本



ホザキナナカマド



ホザキシモツケ

各植物種子の採取後、試験施工時まで温度・湿度を管理して保存

※上記導入候補種以外に、現地で採取可能な、花を付ける在来植物の移植を検討する。

2. 令和5年度以降の調査計画(案)

- ＜試験区整地＞ 斜面の除草や抜根、除礫等を行い、種子吹付と張芝を行う基盤を整地
 ＜試験実施＞ 吹付: 植生基材に必要量の種子を混ぜ、整地した斜面(試験区)に吹付
 張芝: 整地した斜面(試験区)に張芝を敷設し、目串で固定

試験パターン	R5(秋に最終判定)				R6(秋に最終判定)			
	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
A: 在来種種子の吹付(現地採取)		種子採取・試験区整地			試験実施			
					判定(春～秋に計3回)			
B: 在来種種子の吹付(十勝管内採取)		種子採取・試験区整地			試験実施			
					判定(春～秋に計3回)			
C: 外来種種子の吹付	試験区整地・試験実施							
	判定(春～秋に計3回)				必要に応じて追加判定			
D: 外来種張芝	試験区整地・試験実施							
	判定(春～秋に計3回)				必要に応じて追加判定			

- ＜判定＞ 方法: 群落組成調査(植被率、群落高、出現種、出現種の被度・群度)
 判定: 植被率40～50%以上や、ほかの植物種の生育状況なども含めて評価

5. オンネット一地区道路環境保全会議について

令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第2回ワークショップ

1. 第2回 オンネトー地区道路環境保全会議 開催

日時：令和5年2月9日（木） 13：30～ 場所：足寄町役場 1階会議室



保全会議の様子

参加団体（R5.2 現在）

- 雌阿寒自然塾
- 足寄山友会
- NPO法人 あしよろ観光協会
- 帯広ウチダザリガニ・バスターズ
- 川と河畔林を考える会
- 日本野鳥の会十勝支部
- 浦幌野鳥倶楽部
- NPO法人 十勝多自然ネット
- 十勝川中流部市民協働会議
- 足寄町

※ ○は当日の参加団体

事務局

北海道十勝総合振興局 帯広建設管理部

2. 経過報告

・令和4年度の活動について説明

【オンネット一地区道路環境保全会議(第1回)】(令和4年6月14日)

(会議)

- ・規約(案)についての説明
- ・今後の予定についての説明
- ・質疑応答(学校連携・外来種植物の駆除について)

(現地)

- ・オオハンゴンソウ生育箇所にて駆除試験(刈り取り、抜き取り、掘り取り)を実施
- ・阿寒摩周国立公園内の植生状況確認を実施

【令和4年度モアショロ原野螺湾足寄停車場線ワークショップ関係】

- ・ワークショップ現地視察(令和4年9月29日)
- ・第1回ワークショップ(令和4年12月1日)
- ・第2回ワークショップ(令和5年3月開催予定)

令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線
モアショロ原野地区の環境影響に関する 第2回ワークショップ

3. 令和5年度の活動内容(案)について

・令和5年度の活動計画について説明

オンネトー地区 道路環境保全会議	実施時期・実施内容	備 考
オンネトー地区 道路環境保全会議 (第1回)	(実施時期) R5. 5月中旬から下旬を予定 (実施内容) 会議: 令和5年3月に実施するワークショップ(第2回)での検討結果に対する今後の対応等について 現地: オオハンゴンソウ駆除試験(成長開始前)	・オオハンゴンソウの駆除方法は防草シート敷設を予定 ※敷設前に枯草刈を実施(地上部の茎) ※シートの敷設期間は、最低2年を予定
オンネトー地区 道路環境保全会議 道路建設予定地 自然観察会	(実施時期) R5. 8月～10月の間で調整 (実施内容) <観察会(案)> ・澤村氏による地質観察会 ・鏡氏による湿地(池)での水生動物観察会	
オンネトー地区 道路環境保全会議 (第2回)	(実施時期) R6. 2月を予定 (実施内容) 会議: 第1回会議およびWSでの開催内容を踏まえた令和6年度活動方針等の意見交換等	
その他	・外来種に関するリーフレットを学校等に配布 (配布先は足寄町内の小中高を予定)	

4. 質疑応答

植生工法について

Q：植被率の根拠は何か。

A：植物の専門家である岡村教授からの意見を踏まえ、植被率は40%～50%を目標としております。

外来種について

Q：リーフレット表紙のムラサキツメクサについてお聞きしたい。

A：ヨーロッパ原産の外来種であり江戸時代からあるとされている。

高校との連携

Q：足寄高校生徒の自主的な参加をしていただけるよう、教員や生徒のオブザーバーなどの参加を考えてみたらどうか。

A：引き続き学校長含めて丁寧に説明させていただき、まずはリーフレット作成、配布を進めていきたい。

自然観察学習

・足寄動物化石博物館の“友の会”（現在「NPO法人 あしよろの化石と自然」）に参加して頂く等、地元での活動を拡げていただきたい。

外来植物による影響

Q：昆虫、鳥、小さな植物など影響があると思うが、警戒する生物相はどの辺りか。

A：昆虫への影響や菌類への影響は大きいと思う。藻類、地衣類も影響はあるだろうが、実際に目に見えるような影響が出てくるかどうかは分からない。

5. 特別講演

・浦幌町博物館学芸員の持田誠氏に、オンネトー地区の自然観察など勉強会として、「外来種植物と道路建設」のテーマで講演していただいた。



講演の様子



講演の様子

令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第2回ワークショップ

■アメリカオニアザミ植生のあとに来る植生は？

豊
北
海
岸



二年草群落



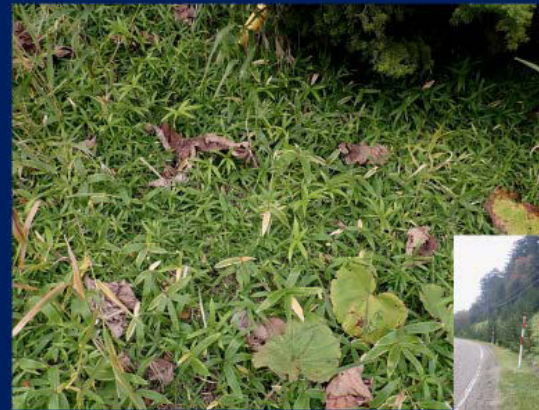
多年草群落

モ
ア
シ
ロ



二年草のアメリカオニアザミ群落は、いずれ他の多年生植物の繁茂とともに徐々に勢力を弱めていく。その次に来る多年生植物に外来種が混じっていると、本格的な外来種群落へと遷移していく可能性がある。

■「遺伝子の多様性」を汚染しないためには？



オンネトー湖畔付近の法面に導入されているササ。道内自生個体ではなく過去に植栽されたもの。



交雑の恐れのある国内在来種を導入するよりも、侵略性の無いことが保障され、植被効果の実績もある外来種を導入する方が安全かもしれない。

講演資料
(4/64)

■外来種抑制のためには、「植被」をいち早く在来種で回復させること



エゾシカが多いため、シカにとって不嗜好な在来植物(カラフトブシ、トモエウ、ハンゴンソウ)などが増えている植生。偏向遷移だが在来種植生。

■まとめ

- ・日本の植物相は、地球スケールの時間の流れのなかで形成されてきたもの。いちど壊すと元に戻らない。
- ・人間生活の影響で植生が改変されることにより、急速に植物相のなかに外来種が入り込んできている。
- ・在来植生に人為的な裸地が形成されると、一年草→二年草→多年草の順番に外来種が定着していく現状がある。多年草群落が成立した外来種植生を在来種植生に戻すのは難しい。
- ・外来種抑制のためには、競合する在来種植生によって、植生の「空き地」をいち早く埋めること
- ・ただし、生物多様性には「遺伝子の多様性」があり、種が同じでも地域的に異なる遺伝子を安易に導入してはならない